

エダウチヘラオオバコ

| | |
|-------|---|
| 著者 | 清水 建美 |
| 著者別表示 | Shimizu Tatemi |
| 雑誌名 | 植物地理・分類研究 |
| 巻 | 40 |
| 号 | 2 |
| ページ | 112-112 |
| 発行年 | 1992-12-25 |
| URL | http://doi.org/10.24517/00055710 |



○ エダウチヘラオオバコ (清水建美*) Tatemi SHIMIZU*: Occurrence of *Plantago lanceolata* L. f. *composita* FARWELL in Nagano

このほど、長野市在住の和田清氏から長野市屋島の千曲川河川敷で採集されたオオバコ属の標本が寄せられた。これは、ヘラオオバコではあるが、花序が単一ではなく、長短あるいは広狭さまざまに枝分れた奇異な姿をしたものであった。検定の結果、上記の学名をもつ品種とすべきものであることが分かったが、一種の奇型であると思われる。日本にはまだ報告がなく、和名も見当たらないので、エダウチヘラオオバコと名づけることにした。

標本：長野市屋島橋西千曲川河川敷，650 m，池田信三，1992年5月31日 (KANA 158123 および 158124)。
(*920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部生物学教室，Department of Biology & Herbarium, Faculty of Science, Kanazawa University, Kanazawa 920-11, Japan)

○ 大井次郎著・北川政夫改訂 新日本植物誌 顕花篇 改訂版 至文堂，平成4年11月20日発行。B5判，1716頁。定価40,000円。

日本の植物学における歴史的な大作である大井植物誌は、著者の没後1983年4月に北川氏による改訂版が出された。実は10年ぶりにこの改訂版の改訂版が出版されると聞き、誰がどのように改訂したのか大いに関心をもっていた。このほど出版社から届けられた新版をみると、改訂というには前版の誤植を訂正した程度で、総頁数も1716頁と全く変りはなく、変わったところといえば、前版の単色写真版32頁が、高橋秀男氏の編集・撮影になる原色図版16頁71種の写真になったことぐらいである。大井植物誌といい牧野植物図鑑といい、原著者名を冠しつつ次第に原型を喪失していくのが果してよいことかどうか意見が分かれるところであろう。この意味で、今回は改訂版というより訂正版であったことは評価されることかもしれない。(清水建美)

○ 加藤陸奥雄・沼田真 (監修)・岩槻邦男 (編集) 滅びゆく日本の植物 50種 築地書館，1992年11月10日発行。B5判，212頁。定価2060円。

今年6月、ブラジルで開かれた地球サミットでは、生物の多様性の保全が緊急課題としてとり上げられ、生物の種の保全は漸く世界的な関心事となってきた。日本でも環境庁を中心として動物・植物のレッドデータブックが発行され始めたし、国会では野生動物植物の種の保全に関する法律が成立した。植物関係では、1989年に自然保護協会の協力によってレッドデータブックがつくられた。そこには絶滅の危機に瀕する植物として895種がリストアップされているが、本書は特にその中から50種を選定し、生態的イラストと25名の研究者による生物学な解説を加え、広く植物の多様性保全を訴えるべく編集されたものである。

とり上げられた植物は、絶滅種がサクラジマハナヤスリ、シマホザキラン、オリヅルスミレの3種、絶滅危惧種がマリモ、アツモリソウ、フジバカマなど17種 (菌類2種を含む)、危急種がマツバラシ、ヒメバラモミ、エビネなど29種 (菌類1種を含む) とカンアオイ類、構成はそれぞれにイラスト1頁に解説2頁となっている。「これらの植物を救えるのは『あなた』です」というこの本のアピールが、実を結ぶことを心から願いたい。なお、同じシリーズとして動物篇・昆虫篇も出版された。(清水建美)

○ 土橋豊 観葉植物 1000—種類の特徴から上手な栽培・管理の仕方まで— 八坂書房，1992年9月10日発行。B5判，279頁。定価5800円。

今では私たちはレストランへ行ってもホールに入っても必ずいろんな観葉植物に出くわすし、自宅のベランダに観葉植物を置いている方も少なくない。しかし、観葉植物はほとんどすべてが外来植物であり、年ごとにふえ続けるだけに、正確に名を知り来歴を調べ栽培のしかたを学ぶことは並大抵ではない。こうした要望に応えるべく生まれたのが、このガイドブックである。

本書は3部構成となっており、第1部は観賞篇で103頁にわたる約700種類のカラー写真を収め、第2部は解説篇でシダ植物から始まり単子葉植物に終る科の配列の中で、属ごとに主な種類を挙げ、属ごとに栽培のポイントを解説し、属ごとに月別の園芸作業日誌を図示している。最後の第3部は参照資料篇として一般的な園芸知識の解説と新傾向の種類の紹介およびそれらの栽培データを含んでいる。収められた見事な写真、要領よくまとめられた解説記事、栽培のノウ・ハウをマスターすれば、この本一冊で観葉植物のイクスパートになることはまちがいない。(清水建美)

○ 松井光瑤・内田方彬・谷本丈夫・北村昌美 大都会に造られた森—明治神宮の森に学ぶ— 第1プランニングセンター製作・発行。1992年4月29日発行。B5判，143頁。定価2300円。

この本は主都圏の緑を代表する明治神宮の森の植物案内のすべてである。1. 森はこうして造られた、2. 植物学的にみた明治神宮の森、3. 永遠に森を守り育てていくために、4. 現代社会における明治神宮の森の存在意義の4章から成り、それぞれに、上記の著者の分担執筆という形をとっている。常緑広葉樹林にすべきかスギ林にすべきか、「永遠の杜」をつくるべき造営当初の論争など興味深い記事が満載されている。(清水建美)